

# 意味生成と写像形式——論理哲学論考における「見る能力」

山形頼之 (Yoriyuki Yamagata)  
福井大学学術研究院工学系部門

本発表では、ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』における写像理論において、世界と命題の関係がどのように生成するか、後期哲学との関連を念頭に置きつつ論じたい。ここでは写像理論において写像が可能となるためには、意味主体が世界のパターン（あるいは相貌）を把握することが前提とされていると論じたい。さらに、この把握は認知的な能力であって言表することはできないから、論考における語ることと示すことの区別が理解できると論じる。

## 形式・形式列・内的関係・表情

論考においては、写像が成立するためには写像形式を事態と命題が共有している必要がある（2.17 節）。論考において「形式」を考察する際の手掛かりとなるのが「形式列」である。例えば、 $aRb$ を $a$ が $b$ の親である、という関係であるとしよう。このとき、 $a$ が $b$ の祖先である、という関係 $R^*$ をラッセルとホワイトヘッドは $R$ を含み推移律をみたす最小の関係として定義した。

しかし、論考によればこれは「外的関係」と「内的関係」を混同している。言表できる関係（外的関係）は事物と事物に関するものであり、関係とその関係の間には関係は成立しない。たとえば関係が「 $R$ を含む最小の関係」である、といった関係は言表可能な外的関係ではない。

その代わり、論考では祖先関係を次のような一定の形式に従う論理式の列（形式列）によって与える。

$$aRb, \exists x. aRx \wedge xRb, \exists x, y. aRx \wedge xRy \wedge yRb, \dots$$

論考によれば、 $a, b$ がこのいずれかの論理式を示す時、 $a$ が $b$ の祖先であるという関係が成り立つ（4.1252 節）。この列は無限列であるが、それが共有する形式を把握することにより把握される。一定の形式を持つこと（表情）を一度に把握することにより、内的関係が理解されるのである。このことは後期哲学におけるアスペクト概念の萌芽と見ることができる。

## 写像理論：像・論理像・論理形式

論考の形而上学において、世界は事実の集まりとして提示される（論考 1 節、2 節）。事実は事態として成立し、事態は事柄と事物の結合である。2.01231 節や 2.0141 節では、事物の内的性質や形式について議論されるが、これを「内的関係」や

「形式」と捉えると、対象の形式は世界にあらかじめ与えられているのではなく、意味主体が世界の表情として認識するものとなる。そして 2.13 節で「対象に対応しているものは、像では像のエレメントである」とされるが、2.17 節において、像が現実を写像するためには、論理形式を現実と共有していなければならないと明示される。さらに、3.311 節および 3.312 節の議論により、表現の問題と論理形式の成立が、形式列や内的関係に依拠していることが示唆される。

### 語られるものと示されるもの

外的関係は事物と事物を結びつけて事態を作るものであり、写像関係により命題に写像可能である。一方、内的関係は、形式列の例で見た通り、複数の事態間の形式の共有により把握される。つまり、内的関係は意味主体の世界の形式の把握を通じて「示される」ものである。この「語る」と「示す」ことの違いを「宣言的知識」と「手続的知識」の区別[5]とみなすことはできないだろうか。

ウィトゲンシュタインがこの区別を受け入れていた証左はたとえば哲学探究 78 節にある。ここでは「クラリネットの音」「ゲームという言葉の使い方」「モンブランの高さ」という知識が対比されている。ウィトゲンシュタインは「ゲームという言葉の使い方」の知識が言葉で言表できないクラリネットの音の知識とも比較されるべきだ、と指摘しているのだ。

こうしてみると、内的関係の一つである写像関係が語り得ないが示されるものである、という意味が理解できるだろう。さらに、命題を言表するという能力は手続的知識であり、命題的知識は手続的知識の一種であるという現代の認知科学の議論とも接続可能かもしれない[4]。

### 謝辞

本研究は槇野紗央里氏との共同研究から始まったものである。槇野紗央里氏の多大な示唆に深い感謝の意を表する。なお、本稿におけるアスペクトの把握を手続的知識として捉える見解は筆者独自のものであり、論文全体の問題点については筆者が責任を負う。

### 参考文献

1. Wittgenstein, L. & 丘沢静也（訳）. 『論理哲学論考』. 光文社, 2014.
2. Wittgenstein, L. & 丘沢静也（訳）. 『哲学探究』. 岩波書店, 2013.
3. Wittgenstein, L. *Tractatus Logico-Philosophicus: German and English Edition* (Trans. C.K. Ogden). Routledge, 1981.
4. Berge, Timon ten, and Rene van Hezewijk. 1999. "Procedural and Declarative Knowledge: An Evolutionary Perspective." *Theory & Psychology*
5. Ryle, Gilbert, and Julia Tanney. *The concept of mind*. Routledge, 2009.